

「かみほばら放課後児童クラブ館新築工事基本・実施設計業務委託」
簡易型設計競技審査委員会 審査講評

1. 審査経過

本簡易型設計競技（以下、「設計競技」という。）は伊達市と福島県建築設計協同組合が締結した「かみほばら放課後児童クラブ館新築工事基本・実施設計業務委託」の設計担当者を選定するためのものであり、各分野を代表する 5 名の審査委員による審査委員会が設置され、慎重かつ厳正な審査を行った。

かみほばら放課後児童クラブ館新築工事は、上保原小学校に隣接した敷地に建設するものである。敷地（約 2,630 m²）は上保原幼稚園の跡地で、幼稚園時代に増築された園舎が残り、現在は発達支援施設（こどもも）として利用されている。（児童クラブ館完成までに機能移転）

提案は平屋建て、延べ床面積約 700 m²の施設を整備するもので、本設計競技に際しては配置図、平面図、立面図以外に、設計趣旨として、①配置計画について、②平面計画について、③立面計画について、④工事費概算書、⑤既存建物との一体利用を踏まえた提案について求めている。

9月15日（木）に伊達市役所で開催した第1回の審査会では提案書の事前審査の結果を各審査員がそれぞれの専門的立場から 5 者すべての提案書について意見を求め審査を行った。

審査の結果 No.5 の提案については、施設の開所直前まで機能を維持する必要がある既存施設を改修する提案であったことから、提案条件に合致していないと判断され、この 1 案を除き 4 者をヒアリング対象とした。

第2回の審査会は9月22日（木）に伊達市役所で開催し、ヒアリングに先立ち開催した審査委員会では審査の進め方等について審議し、最優秀提案者 1 者及び優秀提案者 1 者を選定すること、ヒアリングは 1 者 25 分（説明 10 分、質疑 15 分）で進めること、ヒアリング終了後の選定作業は投票結果を参考に意見交換を行うこととした。また、必要に応じ再投票を行うこととなった。

引き続きヒアリングによる審査ではプロジェクターを使って各提案者が説明を行い、その上で、①児童のアクセス動線やセキュリティの考え方、②クラブ室の配置や校庭とのつながり、③屋根の形状や外壁のメンテナンス性、④コスト管理、⑤既存建物との関連性、⑥省エネほか維持管理コストの考え方、などについて質疑応答を行った。

今回は、建築設計者選定方式として、プロポーザルではなく簡易型とはいえ設計競技であることもあって、実際の設計時に軽微な修正はあるとしても、ヒアリングでは基本的に提案された建築の確認といった側面が強くなった。

その後、最優秀者、優秀者の選定作業に入り、審査員無記名で 1 人当たり 2 票とし 1 位「◎」、2 位「○」印をつけての投票を行った結果、「◎」3 票（受付番号④）、「◎」1 票「○」3 票（受付番号①）、「◎」1 票（受付番号②）、「○」2 票（受付番号③）となった。委員長

裁定で各審査員による意見交換を行った後、「◎」3票を獲得した受付番号④を最優秀提案者に、「◎」1票「○」3票を獲得した受付番号①を優秀提案者に選定した。

2. 審査結果

最優秀提案者：(株)中山建築研究所

優秀提案者：(株)大野建築設計事務所

3. 審査委員会の構成

審査委員長：森山 修治（日大工学部教授）

審査委員：佐藤 弘一（伊達市副市長）

審査委員：鹿股 敏文（伊達市こども未来部長）

審査委員：関根 朋幸（伊達市建設部建築住宅課長）

審査委員：平子 恵俊（福島県建築設計協同組合顧問）

4. 講評

（受付番号④：最優秀提案者）

この案は敷地西角に施設を配置し、北西側の小学校校庭や南西側のことばの教室に接する計画であり“こどもも”を含む既存施設との関係にも配慮されている。駐車場は市道に沿った敷地北東側に配置されており、ロータリーにより送迎用あるいは地域開放用の車の出入りを安全かつスムーズにしている。マイクロバスの駐車位置についても車や歩行者の邪魔にならないよう工夫がなされている。さらに歩行者の市道から敷地への入り口は2か所設けられており、歩行者動線も送迎車動線と交わらない工夫がされている。敷地内に交流テラスや中庭等の屋外施設が設けられているが、敷地境界や駐車場境界にはフェンスが設けられておりセキュリティと児童の安全への配慮がうかがえる。

建物の平面計画は南東側にクラブ室を配置したシンプルなプランであり、事務室から交流ホールやプレイルーム・クラブ室の入り口も見渡せる計画である。外観上もプレイルームの壁の曲面に特徴があり全体の屋根が切妻であることで“こどもも”との一体感が感じられる。既存の“こどもも”については、図書館や相談室、先生方の休憩室としての利用が提案されている。ヒアリング時には、工事費について概算の頻度や精度向上への工夫が述べられた。また基本設計や実施設計において、伊達市と十分なコミュニケーションを行う等の施設利用者の要望への配慮がうかがえた。そのため、今後に予想される課題、例えばシャワー室周りの動線の複雑さやハイサイド窓の維持管理等の煩雑さの解決において、伊達市の考えに添った柔軟な対応が期待できる。

提案書とヒアリング内容を通して、魅力ある“かみほばら放課後児童クラブ館”の実現に向けて、現段階での計画案の機能性と提案性および設計業務を推進するうえでの姿勢が高く評価され、最優秀提案者となった。

（受付番号①：優秀提案者）

この案は敷地西角に施設を配置し、北西側の小学校校庭や南西側のことばの教室に接する計画であり“こどもも”を含む既存施設との関係にも配慮されている。駐車場は市道に沿

った敷地北東側に配置されており、ロータリーにより車の出入りを安全かつスムーズにしているが、マイクロバスの駐車位置については玄関前であり建物の出入りに支障が生じることが懸念される。また、歩行者と車の動線が分離されているが、歩行者の市道から敷地への入り口が1か所であることも利便性において気がかりな点である。敷地内に花壇やベンチ・緑地等の屋外施設が設けられているが、敷地境界や駐車場境界にはフェンスを設けておりセキュリティと児童の安全への配慮がうかがえる。

建物の平面計画は南東側にクラブ室を配置したシンプルなプランであり、事務室から交流ホールやプレイルーム・クラブ室の入り口も見渡せるコンパクトな管理しやすい計画である。外観上は緩勾配屋根が特徴で、窓開口を大きく確保し外ブラインドを設ける等の省エネ対策を提案している。既存の“こどもも”については、病中病後の児童受け入れ室として想定している。

ヒアリング時には、工事費についての詳細な説明や精度向上への工夫の具体的な説明があったが、一次エネルギー消費量50%削減との発言には具体的な根拠が乏しい。

建物の配置計画やセキュリティへの配慮、シンプルな建物平面計画、地球環境への配慮の姿勢などが評価されたが、マイクロバスの駐車位置や敷地への歩行者入り口の問題、ヒアリングでも指摘された一次エネルギー削減の根拠等の課題もあり評価が分かれ、惜しくも次点となった。

(受付番号②)

この案は敷地西側に施設を大きく配置し、北西側の小学校校庭や南西側のことばの教室に接する計画であり“こどもも”を含む既存施設との関係にも配慮されている。駐車場は市道に沿った敷地北東側に配置されており、ロータリーにより車の出入りを安全かつスムーズにしている。マイクロバスの駐車位置についても車や歩行者の邪魔にならないよう工夫がなされている。歩行者の市道から敷地への入口は2か所設けられており、歩行者動線も送迎車動線と交わらない工夫がされている。一方、敷地境界にはフェンスの記載がない等の安全管理面の懸念がある。また、施設の大きさや駐車場を広く確保していることによる将来の増築余地の少なさも懸念される。

建物の平面計画は、クラブ室の独立性を高め「みんなの庭」を取り囲む回遊型のプランであり、動線が明快でまとまりのある配置計画であるが、静養室の位置が事務室から離れていることや陸屋根部分の防水、屋上の室外機のメンテナンスの不安がある。外観上は分棟のようにも見えるクラブ室やプレイルームの独立した切妻屋根が特徴的である。既存の“こどもも”については作品展示ができるアトリエとしての利用を提案している。ヒアリング時には、工事費についての説明や精度向上への工夫の説明があった。

回遊性があり明快で独立性のある平面計画が評価されたが、静養室の位置や敷地フェンス等の問題、陸屋根部分の維持管理の課題、外壁面積が大きいことによるコスト面の懸念が最終評価に影響したものと考えられる。

(受付番号③)

この案は敷地北西側に施設を配置し、施設周囲に設けた「ニシの広場」やプレイルームの「そとの広場」を介して北西側の小学校校庭に接する計画である。駐車場は市道に沿った敷

地北東側と南東側に分散している。送迎車駐車場は敷地北東側に配置されており、ロータリーにより車の出入りを安全かつスムーズにしている。マイクロバスの駐車位置についても車や歩行者の邪魔にならないよう工夫がなされている。歩行者の敷地への入口は小学校校庭側であり、歩行者動線が車動線と交わらない工夫がされているが市道側からの入り口がなく利便性に疑問がある。また、敷地境界にはフェンスの記載がない等の安全管理面の懸念がある。

建物の平面計画は、クラブ室に独立性を持たせ南東側に配置したプランであり、動線が明快で配置として纏まっている。外観上はプレイルームや各クラブ室、事務室等がそれぞれ分棟のようにも見える独立した片流れ屋根が特徴的であり、立面計画も屋根トラスを強調するなど魅力的であるが、陸屋根部分が多く屋根防水への懸念がある。ハイサイドライトの提案も自然採光によるランニングコストの低減には効果があるが、遮光や維持管理等の問題が懸念される。ヒアリング時には、工事費についての説明や精度向上への工夫の説明があった。

特徴的な外観やコンパクトな外観が評価されたが、市道側に歩行者入口がないことやフェンス等の記載がなく安全管理面の課題、陸屋根部分の防水、ハイサイドライトの遮光等の懸念が最終評価に影響したものと考えられる。

(受付番号⑤)

この案は敷地北西側に施設を配置し、北西側の小学校校庭に接して3つある玄関の一つを設けた計画である。また、敷地北西側に中庭を設けて“ことばの教室”とつながりを持たせている。駐車場は市道に沿った敷地北東側に配置されており、ロータリーにより車の出入りを安全かつスムーズにしている。歩行者の敷地への入口は小学校校庭側に1か所、市道側に1か所設けており、歩行者動線が車動線と交わらない工夫がされている。一方、臨時駐車場の位置が奥まりすぎて使い勝手に支障がある。

建物の平面計画は、南西側にクラブ室を配置したシンプルなプランであるが、クラブ室の西日対策、玄関が3か所あり管理の手間や南東側の玄関が道路から奥まっていることによる利便性の懸念がある。外観上は建物全体に緩やかな切妻状の屋根がかかっており、そこからプレイルームの片流れ屋根が飛び出す形をしており、全体の屋根勾配にも調和する形で設けられている。

平面計画はコンパクトであり、施設南西側にクラブ室を配置した意欲的な計画ではあるが、施設完成時まで使用する既設施設である“こどもも”にトイレ等の水回り施設として改修し本施設の一部とする計画は成立せず提案条件を満たしていないとして、一次審査時点で本案は選考対象外とされた。

以上